

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)
 (項目5, 7, 8, 9, 14, 15は評価重点項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員間で話し合いを行い、ホームの目指すサービスのあり方と母体組織の理念である「生きがいのある暮らしの支援」を实践するためにこの地域の中でどのようにサービスを提供していくべきかを考え、事業所独自の理念を作りました。		地域に根ざしたグループホームを目指し、利用者との日々の関わりの中で理念を实践していきたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の实践に向けて日々取り組んでいる	職員会議や申し送りの時等職員間で話し合う機会があるときは理念にふれ、日々のケアに理念が活かされているか確認しあっている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族や地域の人には伝える取り組みは行っていない。		实践を通じて理念を伝えていくとともにパンフレットやホーム便り等で紹介したり、運営推進会議でも理念に基づく運営の状況を伝えていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に散歩や外出に出掛け、近隣に住む人と挨拶を交わし合ったり話している。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会や地域が主催する大勢で参加できるような行事への参加は行っているが、自治会や老人会等への参加は行われていない。		町内会や老人会等で行う地域の活動にも参加できるよう、積極的に地域の人々と関わりを持ち交流を深めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	日々、職員の間で地域に暮らす高齢者や介護が必要な高齢者を抱える家族の役に立つ事がないか話し合いを行っている。		認知症の高齢者を抱える家族の悩み相談や、話の聞き手になることで心の負担の軽減を図れるような窓口を作っていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を全職員に伝え全員で自己評価に取り組むようにしている。評価結果をふまえ、改善計画を作成し改善に努めている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、ホームの実状やサービス向上の為に取り組んでいる内容を報告し意見をもらうようにしている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営やサービスについての課題の解決の際に市町村担当者に相談したり話を交えながら解決に努めている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について、特に学ぶ機会を持っておらず利用者や家族に対しても情報提供を行っていない。		現在、権利擁護に関する制度を必要とする利用者がいない為、学ぶ機会を持つことをおろそかにしていたが、必要な知識として今後は関心を持って制度の理解に努めたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議において、虐待とはどのような行為をさすのか日々のケアの中で事例を挙げて話し合いを行い防止に努めている。虐待防止のマニュアルを作成し対応等が周知されている。		虐待防止関連法についての勉強会を行い虐待の徹底防止に努めたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には重要事項を説明するとともに利用者や家族の質問や疑問に答え、ホームでの生活や契約内容について十分に理解し納得していただいた上で契約を行っている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>定期的に介護相談員を受け入れを行い、利用者の立場に立った意見を頂き参考になっている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>定期的にホーム便りを発行しホームの様子を伝えている。家族が来園したときには写真を見ていただいたり、日頃の生活の様子や健康状態や心の状態を職員が報告している。また、定期受診時には健康状態を口頭と書面にて家族に伝えている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族がホームを訪問した時には、意見や要望があるか問いかけている。率直に意見や不満を伝えてくれる家族もいるが中には意見等を言うことをためらっている家族もいると思われる。</p>	<p>個別のカンファレンスに家族からも参加していただく等、意見や不満、要望を聞く機会を設けてサービスに反映していきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日頃からコミュニケーションをとるように心掛け、問いかけたり聞きだしたりしている。定期的に個別面談やミーティングを行い意見や提案を聞くようにしている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の状況の変化に応じて勤務体制を整えている。夕方の利用者が不穏になりやすい時間帯に十分に対応ができるよう職員を確保している。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動や交替は必要最小限に抑え、利用者や職員、家族と職員の間に関係と信頼関係が築けるよう努力している。</p>	
18-2	<p>マニュアルの整備</p> <p>サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。</p>	<p>各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。適宜マニュアルの見直しが行われている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部での研修に職員が受講できるように計らい、職員会議にて研修の報告を行い研修内容を共有している。		職場内での勉強会を行い職員のスキルアップを目指していきたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設への見学や交流を通じて、他事業所の意見等も取り入れてサービスの向上に活かしている。		今後も交流の機会を積極的に持っていきたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	定期的にあるいは必要に応じて個別の面談を行い業務上の悩みや職場に対する思いを聴きとり職員のストレスの軽減を図っている。またその要望や意見を働きやすい職場作りに活かしている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	定期的に勤務の考課と自己評価を実施し職員の勤務状況の把握に努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談にて聞き取った生活の状況や心身の状態に関する情報をふまえて、本人の希望や不安、困っている事を理解しようと努めている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談や事前の面談で家族の苦勞やどのような希望をもっているのか等をじっくりと聞き理解に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に本人や家族の望む事や状況を確認し、また担当の介護支援専門員やケースワーカー等の意見も聞きながら対応を行っている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用開始前より本人や家族からホーム内の見学を兼ねて何回か遊びに来てもらいホームを知ってもらうことで安心して利用していただけるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩という考えを大切にし日常生活の中で利用者から教えて貰う場面作りやセッティングを工夫している。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族ともコミュニケーションをとる事で家族の思いを聞いたり情報の交換を行う事で利用者を共に支えて行く関係を築いている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族や本人の状況を見ながら外泊や外出ができるよう働きかけを行ったり、面会時にはゆったりと過ごせるよう配慮している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの友人や場所への訪問は家族が付き添う外出時に行われている。また利用者からその希望や要望があった場合は家族に伝えている。		家族とも話をし、職員が付き添って希望の場所や友人のお宅に訪問できるようにしていきたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係性を大切にうまく付き合いができるよう見守りやセッティングを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の施設に移られた方へも利用者と一緒に遊びに行ったり、関わりを持っている。		ホームで行われる行事等にもお誘いして交流を続けていきたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前面談時に本人や家族の思いや希望を聞きとるようにし、サービス利用中も日々のコミュニケーションの中で思いや希望を把握するよう努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、担当のケアマネージャー等から聞き取りを行い生活歴や生活の様子についての把握に努めている。サービス利用中も折りに触れて本人や家族の話の中から聞きとるよう努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するよう努めている	個別に記録をつけ、きめ細やかな観察を行う事で一人ひとりの1日の生活のリズムや心身の状況を把握している。また本人のできる事に着目しながら現在の状態を総合的に把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の関わりの中で利用者や家族の思いや希望を聞き取るようにし介護計画に反映できるよう努めている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間が終了する前に見直しを行い、状態が変化したときには終了を待たずに見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、身体的な状況や生活の様子を、全ての職員が確認できるようにしています。業務開始前に記録を確認し、申し送りを徹底しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じ、通院や送迎に必要な支援を行っています。医療連絡体制を活かし、重度化した場合でも生活できるよう支援しています。		看護師を配置する事で、重度化した場合もグループホームで生活を継続できるよう支援を行う。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的にボランティアの訪問を受け、地域との交流を持ちながら支援しています。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問理容師サービスの利用等		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの協力関係がきずかれていない		地域包括センターの役割を理解し、利用者の支援に繋がっていききたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人やご家族が希望するかかりつけ医となっている受診はご家族付き添いとなっていますが、状況に応じては職員も同行したり、家族の代行をする場合もあります。希望に沿って訪問往診してもらう利用者もいらっしゃいます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力病院に、認知症の症状についても相談する事ができ、適切な指示や助言をしてくれる医師がいます。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置しており、利用者の日常の健康管理や状況に応じた支援が行われています。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した時は本人が安心して生活できるよう、情報の提供を行っています。退院に向けてはケースワーカーと情報交換や退院後の生活について家族や御本人も交えて相談を行っています。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について利用者、ご家族との話し合いはもたれていない。		利用者一人ひとりに対して、話し合いの機会を持ち、本人や家族の意向を確認していきたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	看取りに関する支援について、準備は行われていない。		事務所で「できること・できないこと」の見極めを行い、どこまで支援できるのか検討したい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の施設へ移られた場合、その方が早くその場に馴染めるよう、移転先の施設へ生活状況や身体状況等の情報を詳しく伝えている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	家庭的な雰囲気を崩さずに、誠意を持って対応し、生活歴などから、お一人おひとりが、何を大切に生きて来られたかを把握し、行き届いた配慮ができるよう努めています。個人情報に関わる書類は、事務所で保管しています。	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	性格や認知の度合いに合わせ、本人の希望を表せるような雰囲気、自ら決定できるような雰囲気作りに努めています。又、希望を表現できない方は、複数の選択肢により自己決定できるように働きかけています。	一人ひとりの力に合わせた声掛け、説明が出来るようさらにスキルを上げていきたい。
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの入居者様のペースを尊重した暮らしに努めています。入居当初は、生活ペースがつかめず戸惑っていた入居者様もいましたが、現在は、個々の日課が自然に出来上がり、同じ空間で安心感を得ながら、自然で家庭的な雰囲気が流れています。	今後もその人らしさを存分に活かしてケアに工夫していく。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	髪形については、御本人の意向を尊重して支援しています。又、どこにどんな衣類がしまっているか、ご自分がどんな衣類をお持ちか、つい忘れがちですが、必要な方には、職員と一緒にお手伝いしながら、その人らしい装いを支援しています。	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自家菜園で野菜を収穫し、食材として使用しています。又、会話の中から食べたい物を聞き出し、メニューに入れたい包丁で野菜切りをされたり、もやしひげ取り、味付けの時の味見をしてもらったり、テーブル拭き、食器洗い、食器拭き、後片付け等、職員と入居者様が共同して食事を楽しまれています。	本人の好みをもっと取り入れる工夫をしたい。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	各人の好みや、長年の週間を大切に、適時提供しています。おやつも好みを尊重し、画一的にならないようにしています。入居者様の希望に沿って、おやつ作りもしています。	希望を表出できない人でも、嗜好を把握して支援するよう努めていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個人の排泄パターンの情報について、各職員が気が付いたことを、申し送りや個人記録で共有しています。誘導についても個人の尊厳を傷付けないように配慮しています。希望により夜間は、ポータブルトイレを居室で利用する方もいます。		一人ひとりの力、習慣をさらに追求して、支援の方法を検討していく。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日お湯は、14時から張り準備をしています。入居者様の希望を聴き、柔軟に対応しています。又、入浴時は、気持ちよく入浴して頂くよう声掛けにも注意し、個々にあった関わりに対応しています。プライバシーを配慮しつつ、安全も考慮し、支援しています。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居時当、睡眠状態を把握する上で、睡眠チェック表を使用し、安全安眠を把握しています。又、昼夜逆転を考慮しつつ、いつでも休みたいときに休めるよう整備しています。天気のいい日は布団を干したり、定期的なシーツ交換により環境を整えています。又、空調関係は職員巡回時の状況により対応しています。		
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理や後片付け、洗濯物畳み、新聞取り等、基礎となる生活参加は、皆さんの力に応じて行って頂いています。こうした普段の暮らしを大切にすることで、外出やホーム内での催しなど、適宜設け、生活のメリハリを得られるようにしています。		生活の中での張り合い、喜び、達成感が得られるように支援していく。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に応じて、家族と相談の上、お金を所持したり、使えるよう支援しています。		全職員が、本人がお金を持つ事の大切さを理解し、一人ひとりの希望、力を見極めて支援の方法を検討していく。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体調に応じて近隣の散歩、食料品の買い物や外出など、出来るだけ戸外に出掛ける事により体力や歩行能力の維持に加え、気分転換や日々の充実感を得られるよう配慮しています。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節、天候の入居者様の様子を見ながら、数人での自動車での外出の機会を設け、気分転換を図っています。又、ご家族の協力を得られる場合は、ご家族との水入らずの外出や、帰宅、外泊の機会をもてるよう協力しています。		希望を言える方ばかりでなく、訴えられない方にもご本人の気分や好みに応じた外出等の機会を平等に確保していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族をはじめ、ご親戚、ご友人からのお電話を歓迎しています。又、本人から電話をかけたり、可能な方には、頂いたお手紙のお返事を書いていただくよう支援しています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	歓迎に努めています。家族、友人、隣近所だった人など、なじみの人達が訪問されています。大人数でのお越しの際は、補助用の椅子を用意させて頂いたり、居室、フロアを使ってゆっくり過ごして頂いています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事務所に、身体拘束の関連ファイルを掲示しています。又、身体拘束ゼロを前提に、安全確保するためにヒヤリハットを活用し、職員間で話し合いし、工夫し、対応しています。母体組織においての委員会活動(拘束検討委員会)に参加し身体拘束についての理解を深めるとともに日常のケアに活かしています。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	一人ひとりの自由な生活を支えるため、全ての職員が「鍵をかけないケア」の大切さを認識し取り組んでいます。一人ひとりのその時々のお気持ちや、外出傾向の把握など個別ケアの徹底で対応し、フロア入り口にセンサーの設置を行っています。引き続き、鍵をかけない状態を維持できるよう努めます。		日中、玄関の鍵を開けたケアを引き続き実践していきたい。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中、お部屋にいられる際は、さり気なく様子を伺いにいき、所在安全確認をしています。夜間は一時間おきの巡回、物音などの際、訪室して確認しています。夜間は安眠、プライバシーへの配慮を念頭に置き、巡回に努めています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	生活感のある環境を大切にしつつ、一人ひとりの状態、他者への影響を確認しながら、危険を防ぐ工夫を心掛けています。		危険をふせぐために一律に物品を無くすのではなく、状況をよく見極め、生活の場としての空間作りのための工夫をしていきたい。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書、ヒヤリハット書を使用し、事故報告、気づきの共有をしています。同様の事故再発防止に努め、入居者様の状況を把握し、申し送りを通じて、全スタッフに周知しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	基礎的な行為については、マニュアルにして緊急連絡網と一緒に整備しています。又、その時の入居者様の状況により、規定されているリスクについてその都度、看護職からの注意点や指示にあたります。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、職員と利用者様で防災避難訓練を行っています。消防署協力の下、消火訓練や避難誘導時の注意など、アドバイスをもらっています。隣人に緊急時は、強力してもらえるよう依頼している。		
72	一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	状況を共にリスク等説明し、本人やご家族の望む生活が、なるべく継続できるよう話あっています。		一人ひとり起こり得るリスクについて各家族等と話し合っていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、バイタル測定をし、普段との比較で体調を観察、必要な場合は申し送り等で情報の共有を徹底しています。又、少しでも異常や疑問を感じる際には看護師や生活医に連絡し、相談に応じてもらい対応を行っています。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方箋、説明書をファイルして、全員が把握できるようにしています。薬の変更の際にも理由等を連絡ノートに記載し、職員全員が把握、状態観察に努めています。		全職員が薬についての理解を深め、服薬による状態の変化を観察できる視点を養っていきたい。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	バランスのとれた食事メニューと伴に排便間隔、生活リズムの乱れの有無、食事摂取の量や内容、水分摂取量、体調や運動量、薬の副作用など、排便に影響を及ぼすよう陰を個別に検討し、対応を行っています。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、肛腔ケアの声掛けをし、支援が必要な方には、手助けをさせて頂いています。入居当初は肛腔ケアの週間が無かった方も、ホームにきて徐々に肛腔ケアの週間を身につけて頂いています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は入居者様の嗜好などを基に、1600カロリーの献立を作成、食事摂取量については、3度の食事毎に主食と副食に分けて摂取量をチェック、摂取量を充足できない場合などは捕食によって対応、又、水分摂取の少ない方には、個別の摂取表に基づいて促しなどを行っています。		観察を怠らず、一人ひとりの力、週間に応じた支援をしていく。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルに基づいて、未然に防ぐよう努めています。手洗いや消毒、使い捨て手袋、マスクの使用、手すりやドアノブの消毒などを行っています。利用者及び、全職員が、インフルエンザの予防接種を行っています。又、ノロウイルス対策の為の清掃方法を徹底しました。		感染症に関する勉強は継続していきたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	生活の場としての衛生管理について注意を払っています。手洗いや、アルコールの消毒の徹底、調理用具の消毒や乾燥機の使用を行っています。自家菜園の取立ての安全な野菜を食材に取り入れ、購入の食材は、必要量購入し、早めに使用するなど気を配っています。		食中毒、感染症に対する知識をさらに深め、入居者様を危険にさらす事の無いよう常に徹底した管理をしていきたい。
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工 士 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りのプランターに入居者様と花を植えるなど、家庭的な玄関回りになる工夫をしています。又、庭には季節により野菜を育てる等、緑と実りのある暖かな雰囲気のあるホームを目指しています。		今後も、家庭の方や近隣の方々が気軽に訪ねてこられるような雰囲気と空間を作っていきたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	主役である入居者様の動きやすさ、便利さ、安全性など、日々の暮らしを通じ、生活感のある共有空間作りを行っています。音の大小に配慮したり、窓からの光が、強すぎないようにレースのカーテンを使い調節しています。リビングの窓からは、季節の花や作物が望め、お正月の鏡餅や七夕飾りなど暮らしの風物を取り入れるようにしています。		利用者、ご家族、外部からのお客様が居心地よく過ごせる空間作りに努めていく。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づく り 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になられる方は、お部屋に行かれています。又、リビングには皆で囲む食卓の他に少し離れてテーブルとソファを用意し、入居者様が思い思いの場所でリラックスされ過ごされています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居段階で、ご自宅から使い慣れた家具類を持ち込んで頂けるようお勧めし、馴染みの雰囲気でご自宅である実感と安心感を得られるよう、これまでの生活の延長に暮らせる配慮をしています。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	適度な暑さ、寒さを感じいただき、時の見当識が薄れないよう、又、入居者様の体調を十分に考慮して外気との温度調節を行っています。トイレは常に換気して、気になる臭いの除去に努めています。		今後も外気と大きな差が無いよう配慮し、換気、室温の適宜調節をこまめに行うよう支援していく。
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、バリアフリーで廊下、トイレ、浴室に手すりを設置しています。又、3ヶ所あるうち1ヶ所のトイレは、車椅子対応となっています。歩行空間には障害物が無いよう配慮し、安全が保てるよう配慮しています。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の理解力や性格等により、対応方法が違う事を職員が理解し、持てる能力の中で自立した生活が出来るよう工夫しています。又、出来る事には先取り解除をしないよう、又、出来る限り自律した自信の持てる環境を作っていくよう努めています。		まだ個別ケアをきちんと理解するまでに、いたっていない部分もあるため、今後も職員皆で学びながら、入居者様一人ひとりが、生き生きと生活出来るようにしたい。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外周りには、花壇や畑をつくり、季節の草花や野菜の収穫を楽しんでいます。中庭のベンチに座りそれを眺めたり、日向ぼっこをして楽しまれています。又、晴れた日には布団や洗濯物を干したりというごく家庭的な風景が、日常的に見られています。		外周りの環境を今後も有効に活用していきたい。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ホームの運営理念について、母体の法人の運営理念である「生きがいのある暮らしの支援」をもう少し具体的に考え、わかりやすい内容にし、日々の業務の中で実践できるものに作りなおしました。理念をみんなで唱和するようなことはしていませんが、1日の業務が終わった時あるいは記録を記入している時等に理念が実践できているか各々が振り返りを行っています。ホーム内での活動について、利用者様と職員とで畑作りや花壇作りを行い自然とのふれあいをさせていただいております。